

サンゴ礁が広がる絶景の浦添・カーミージー（亀瀬）の海。このすぐ目の前に那覇から軍港が移設予定

## 「復帰」後を生きる

國分美生（沖縄 YWCA 会員）

今年は沖縄が日本に「復帰」して 50 年の節目ですが、市民の生活の中では祝賀ムードは感じられません。沖縄の人々が「復帰」について言葉にするのが難しいほど、複雑な歴史を背負われてきてしまったことが肌で感じられます。沖縄 YWCA 会員の S さん（20 代）にインタビューし答えていただきました。

**國分：** 沖縄が日本に「復帰」した歴史を、これまで学校でどのように教わりましたか？ また、家族や友人たちと話すことはありますか？

**Sさん：** 学校では沖縄戦については学びますが、「復帰」についてはないですね。そういう話題を話す先生もいませんでしたし、家族とも「復帰」について話すことはないです。「復帰してよかったね」と声高に言う人も周りにはいません。祖母が時々、「復帰」して車が右通行だったのが左通行になったとか、「復帰」前は B 円というのを使っていたんだよとか、実物も見せてくれて…「復帰」の前後でこんなにいろいろ変わったんだよ、という話はしてくれますが。

**國分：** 若い人たちは「復帰」するもしないも、自分で選べなかった世代であるわけですが、「復帰してよかった」「どちらともいえない」「しない方がよかった」から選ぶとしたらどれですか？

**Sさん：** やっぱり、どちらともいえない、ですね。「復帰」していない場合、今頃沖縄がどんなふうだったか想像できないですし。「復帰」は、当時はよかった面もあるのだろ

うと思います。米軍基地もなくなって、みんなが豊かに安心して暮らせるようになるという期待が高まっていた時代ですから、自分もその時に生きていたら賛成の立場だったかも。でも多くの人が今、「こんなはずじゃなかった」と思っていると思います。

自分の周りの若者たちも「復帰」についてどうか？と聞かれても、「わからない」「どちらともいえない」と答えると思います。そういうことを深く考えたり議論したりしてこなかった人が多いはず。そういう空気じゃなかったのだと思います。

**國分：** 「復帰」、そして沖縄の平和な未来、という視点からどんなことを考えますか？

**Sさん：** 日本に「復帰」後、沖縄の人々の暮らしは良くなるどころか、ますます悪くなっている感じはしますよね。基地があることによる環境破壊や、女性たちの身の危険がとりわけ気にかかります。私は浦添に住んでいるんですが、美しい貴重なサンゴ礁を破壊して軍港が那覇から移設される計画があります。造ってほしくないですね。

「琉球独立」という意見もあって、若い人でも「日本から独立して、琉球王国を再建」という人はいます。ただ「王国」をつくるのは反対です。王が統治する国というのは、やはり権力の構造が出来てしまい、女性たちや弱い者が苦しめられ負担を負わされる社会になります。日本に「復帰」だろうが、中国に属するだろうが、独立だろうが形は何でもいいから、とにかくみんなが幸せで、安心安全に暮らせる社会になって欲しいです。

# 「子ども日本語トータルサポートプログラム」をご支援ください！



プログラムの担当者の声

外国にルーツを持つ子どもたちは、親のいろいろな都合で来日し、日本語が分からないまま日本の小・中学校に通い始めます。中には18歳を超えて来日し、夜間中学校に入学する人もいます。そして、高校進学という壁を乗り越えなければなりません。神戸YWCA学院では、その子どもたちを来日直後から社会人になるまで、トータルにサポートすることを目指しています。

来日直後に基礎的な日本語力をつけてもらうため、夏休みに「勉強に役立つ日本語」クラスを実施します。クラスはそれぞれの日本語レベルに合わせ、すべてプロの日本語講師による個別指導で行われます。

毎月1回土曜日の「はッピー・さぼーと」は、学校での勉強についていけるよう教科指導を行います。日本文化も体験します。

年3回開催の「はッピー・すくーる」は、進学相談会と、進学・就職した先輩の話聞く会を持ち、進学やキャリア形成のサポートを行います。

各プログラムでは、学院日本語講師による日本語指導のほか、教科指導を教員免許のある方や日本語ボランティア養成講座修了生に協力いただいています。

「子ども日本語トータルサポート」は、子どもたちが経済的理由で学びの機会を失うことのないように授業料・参加費を無料にし、助成金と寄付で運営をしています（ただし「勉強日本語」は資料代2,000円）。1人でも多くの子どもが学びを継続できるように、どうぞ応援してください。

ご寄付はこちらへ

## 子ども日本語トータルサポート募金

目標額：100万円

募集期間：2022年6月1日～9月30日

郵便振替 01100-0-10298

公益財団法人神戸YWCA

\*振替用紙の通信欄に「子ども日本語」とご明記ください。

神戸YWCAへのご寄付は税額控除の対象になります。詳しくは事務局へお問い合わせください。



昨年度は「はッピー・すくーる」の「先輩の話聞こう」をオンラインで行いました。関東在住・社会人のUさんと、県内の大学生のNさんが参加しました。Uさんは中学生で来日し、すぐに「さぼーと」「すくーる」に参加、そのころから理系科目が得意でした。理系の大学を卒業後、IT企業で働いています。

Nさんは「勉強日本語」「さぼーと」「すくーる」に参加、計画的に勉強に取り組むタイプで、高校生の時には日本語だけでなく、英語の勉強にも熱心で、今は英語で学ぶ大学に通っています。2人は参加者の質問に答えながら、高校生活を有意義に過ごすこと、大学入試の準備、就活、IT業界についてや、もちろん失敗談も話してくれました。

最後にひとりが言った「日本は夢を追いやすい国。夢を持って諦めないでほしい」という言葉がとても印象に残りました。最近の日本は子どもたちが将来に希望の持てない国になっているように感じていましたが、この言葉を聞いて「私が諦めてはいけない、夢を追う子どもたちをこれからも応援したい」と思いました。また、このプログラムで学んだ子どもたちが成長して後輩を励ます側の支援者になっている様子を見て、「トータルサポート」がやっと形になってきたと実感しています。

(副主任講師・小川佐由理)

## まごの手ヘルパー徒然記

連載開始から1年。ヘルパー不足は相変わらず続いている。その一方で、事業所としてはありがたいことだが、新規の利用依頼を次々と頂く。引き受けてくれるヘルパーが見つからなくて、残念ながらお断りしているケースもある。

今春依頼してこられた新規利用者は、いずれも独居の方だった。介護度は要支援の方が多いが、年齢はほとんどが90歳前後。93歳で初めて

訪問介護を利用する方もいた。依頼の電話を受けるたびに、「よくここまで一人で頑張ってくれましたね！」と（若輩者の方で、だが）、心の中で思う。

利用者の背後には、通院に付き添ってくれたり、定期的に来て買い物や掃除を手伝ってくれたりする家族や知人の存在がある。それでも、



持病や不安を常に抱えつつ、日々の暮らしを一人で営んでいることには変わりはない。中には、家族や知人等頼れる人を全く得られず、ギリギリまで一人で何とかしていたが、限界になって新規依頼になる方もいる。

依頼を受けて、利用者や家族の希望を叶えてあげたい。そのためにも、一人でも多くの方がヘルパーとして利用者の生活を支えてくれるよう、この紙面を借りてお願いするばかりである。

(まごの手職員・藤井かえ子)

# わいわいデイルーム

長年お世話になった分室から本館へ引っ越して1カ月がたちました。利用者さんも通いづらくなり退会されたり体調が悪く休んでおられたりする方もある一方、遠くなくてもバスに乗ってきてくださる方もおられ感謝です。また、新規に登録された方も交え、以前と変わらずわいわいと楽しいデイルームが始まっています。スタッフのリーダーに新しくY



さんを迎え、3人体制でそれぞれの個性を生かしながら頑張っていると思っています。まだまだコロナ禍ではありますが、感染予防に気をつけながら、少しずつ以前のプログラムに戻ってきました。広々としたチャペルで思いっきり身体を動かすアクティビティも取り入れていたらと思っています。また、グランドピアノの演奏をお願いしたいと夢を膨らませています。皆さまも火曜日にぜひチャペルをのぞきにいらしてください。いろいろな方々との交流を楽しみに利用者、スタッフ一同お待ちしております。(新井 育子)



## 若年性認知症の人と仲間たちのつどい カフェもぐもぐ

4月から神戸YWCA本館近くの日本基督教団神戸聖愛教会を借りて活動を始めました。4月2日(土)、教会から眺める生田川公園の満開の桜に誘われてお花見を楽しみました。毎回のメインプログラムはみんなでつくる昼食です。5月7日(土)には、充実した広いキッチンで作ったドライカレーの美味しかったこと。



## 5・3 兵庫憲法集会

5月3日(火・祝)午後、憲法集会が神戸みなとのもり公園で催されました。

晴天のもと公園に着くと、すでに大勢の人々が集まっていて、集会への関心の高さを感じました。開会前の新井深絵さんのミニコンサートも活気に満ちていました。

メインスピーカーはジャーナリストの金平茂紀さんで、ロシアのウクライナ侵攻後すぐに、現地取材のためウクライナに向かわれた方です。ウクライナ国境付近には、戦禍から逃れようとする人々が溢れていて、家族が別れを悲しむ、辛い姿に接し

てられました。戦争は殺し合いです。日本国憲法は、私たちが多大な犠牲を払って得た「宝物」なのではないでしょうか。改憲の動きがありますが、今こそ、冷静に考える必要があると思います。(平和活動グループ・寺沢 京子)



カフェもぐもぐは「悩みを共有できる人に出会いたい、ほっとして集う場がほしい」「自分たちも学び、考え、役割を持って働き、伝えたい」と願って活動しています。

コロナ禍のこの2年間、「今回は開催できる？」と葛藤しながら、「みんなで会いたい」を大切にしてきました。新たな場所を与えられ、感謝して楽しみながら今年も発信していきたいと思っています。

毎月第1土曜日ぜひ覗いてください。まずは昼食をご一緒に！(宮田 泰子)

ある日、高齢のシスターが本部からジャムのおすそ分けを持っていらつしやう。彼女たちの「わあーっ！」という明るい声が、雲一つない青空に吸い込まれていった。年齢を超え、国籍を超え、それは「へ・い・わ」という言葉が光景になったものだった。なぜか涙が出そうになった。(澤村 典子)

広い敷地には季節ごとに花が美しく咲き、畑では野菜が元気に育っている。彼女たちは文字通り何も持たずに来て、修道院で与えられたものだけで生活している。物質社会とは一線を画した質素な生活。スマホも持たず、折り紙と修練に努める日々。いつも感謝を口にし、にこにこしている。帰り道いつも、本当の幸せとは、豊かさとは何かを考えさせられる。私の生活の中になんと心騒がす雑音の多いことだろう。

神戸YWCA学院  
がまだ専門学校だったころ、日本語教師としてYでの仕事をいただき早く20数年。今、仁川の修道院へ、ベトナムからの修練生(シスター志願の研修生)たちに教えに通っている。コロナのため一年遅れでやっと来日できた3期生の修練生たちのクラスも、この5月にスタートした。



●わいわいデイルーム 会館

(神戸市地域拠点型一般介護予防事業)  
毎週火曜日、10時～15時  
利用についてはお近くのあんしんすこやかセンターにご相談ください。

●カフェもぐもぐ その他

若年性認知症の人と仲間たちのつどい  
6月4日(土)、7月2日(土) 10時30分～15時  
場所 日本基督教団神戸聖愛教会  
参加費 800円(食事付)  
要予約、詳細はお問い合わせください。  
「神戸市認知症サポーター養成講座」  
7月2日(土) 14時～16時  
場所 日本基督教団神戸聖愛教会  
費用 無料

●木曜カフェ 会館

6月9日、23日、7月14日、28日  
(第2・4木曜日)、13時30分～15時30分  
レコードで懐かしい音楽を聴きながらほっこり

しませんか？(1ドリンク100円～)  
\*食料品の販売はありません。

●平和活動グループ その他

「憲法カフェ 参院選前のおしゃべり会」  
6月19日(日) 14～16時  
場所 神戸学生青年センターウエスト100・1階  
参加費 500円

●声の奉仕 会館

視覚障がい者のためのデジタル図書づくり  
6月28日(火)、7月26日(火) 13～16時  
(第4火曜日)  
参加費 600円/月(YWCAの会員になることが必要。年会費12,000円)他に日赤団費1,000円/年  
講師 酒井茂樹さん(元NHKアナウンサー)

●ピース・ブリッジ その他

学び語り合いつながる会  
「ベアテ・シロタさんについて学び、平和を考える」  
6月11日(土) 14～16時  
場所 喫茶「エスポワール」(阪急六甲駅南側徒歩2分)  
Tel. 078-882-0351  
参加費 1,000円(資料、ワンドリンク含む)  
問い合わせ 寺沢 (forpeace24@hotmail.com)

の会員活動支援について意見交換 (書記・福田 百)

■ 理事会報告

3月22日(火) 2021年度第8回理事会。出席理事7人、監事2人。2022年度資金調達および設備投資の見込みの件を承認、2022年度事業計画および予算を承認、等。

5月21日(土) 第9回理事会。出席理事8人、監事2人。2021年度事業報告および決算報告を承認、第12回定時評議員会召集を承認、等。  
(総幹事・西本 玲子)

■ 新会友

井上 雅人 藤井 康虎(敬称略)

■ 賛助員

井上 早苗 小川佐由理  
櫻井 かおり 須見 恭子  
平木 貴美子 平山 嘉廣  
三浦 哲朗 (敬称略)

■ 編集後記

LP盤の音に手作りケーキとお茶で弾むおしゃべり。木曜カフェのにぎわい。いいねえ。(S-I)

■ 学院だより

外国語コースでは、いましゅりゃーコースの韓国語初級クラスが熱い。今年度から開講日を水曜日の19:00～20:15に変更し、受講生も2人増え、いい雰囲気です。一方、長年続いていた中級クラスは3月末で一旦閉じたが、新たな受講生を募集している。  
(秋月 啓子)

■ まごの手だより

「生活支援わいわい」は、4月20日(水)、「サービス提供者交流・研修会」を開催。参加者13人。講師に木村文子さん(神戸YWCA会長)を迎え、「掃除サービスで知っておきたいコツ・利用者さんの安心感アップ」というテーマで、風呂掃除サービスを例に事前準備から終了後までの実際について学んだ。終了後、2021年度活動の振り返りと、2022年度計画の報告。参加者の感想・意見交換を行った。  
「居住支援」は、3～4月に6

人から相談を受け、うち3人の住宅を見つけることができた。

まごの手では、ヘルパーおよびサービス提供責任者を募集中。共に働く仲間を求めている。(所長・寺内 真子)

■ 保育園だより

「はやくいこ！」とおうちの方をせかして登園してくる声が遠くから聞こえてきます。保育園が早く行きたい場所になっていることがとても嬉しいです。「少ない人数だからできること」を考えながら、子どもたちの「やりたい」を一緒にかたちにしていって毎日です。  
(園長・梅川 玲子)

■ 運営委員会報告

4月9日、第2回運営委員会開催(ハイブリッド)、出席6人。【報告】●日本YWCA ●会員活動【議事】●2021年度運営委員会事業報告●各委員会メンバー募集チラシ●第3期LA補助申請●2022年度運営委員会の検討課題と今後の進め方

5月14日、第3回運営委

員会開催(オンライン)、出席6人。【報告】●日本YWCA ●会員活動【議事】●日本YWCA運営委員候補者の選出 ●キックオフミーティング開催 ●会員アンケート内容 ●ミニバザー開催 ●グループ活動ハンドブック改正 ●コロナ禍

2022 神戸YWCA  
キックオフ・ミーティング

日時: 6月25日(土) 13:30～15:00  
場所: 神戸YWCA 会館5階チャペル(オンライン参加も可)  
内容 ①神戸YWCAの会員活動紹介  
②これからの神戸YWCAを考えるアンケート  
\*各委員会・プロジェクト・グループから必ず1人以上はご出席ください。  
お申し込み: 神戸YWCA 事務局受付 (078-231-6201) まで

ミニミニバザー

6月25日(土) 11:00～12:30  
神戸YWCA 会館北側駐輪場(雨天中止)

リサイクル食器、リサイクル衣類(子ども)、  
YWCAオリジナルチャリティ・ドリップコーヒー、  
はるいさんの天然はちみつなど!

ホームヘルパー募集

誰もが地域の中で自分らしい暮らしをおくるために、  
担い手となって働きませんか。

◆ホームヘルパー

常勤 月給198,100円～  
パート 時給1,100～1,200円  
登録型 時給1,000～1,400円

\*担当・寺内までお問い合わせください。

◆生活支援訪問  
サービス従業者 900円/回

神戸YWCA  
まごの手

☎078-231-3156

シャマイム  
担当者 佐野 睦 (日本基督教団 甲東教会会員)  
よい てん ご く  
0120-41-1059 (24時間受付)  
宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせていただきます  
西宮市段上町2丁目13-2  
URL: http://sanosousai.com